

1. マルチメディアとは

文字・音・映像ではマルチメディアを説明しきれていない。

- テレビだって、文字・音・映像を扱える。
- 雑誌・コミック等の従来の紙のメディアでも工夫次第でいろいろな情報を表現している。

マルチメディア = デジタルであること

ネグロポンテ（MIT のメディアラボの所長）の言葉

「一般にマルチメディアとは、技術の進展により、文字・音声・静止画・動画等をデジタル処理し、一体的に扱うことができる状態を示しており、以下のような特徴を有する。

同時性
双方向性
表現の多様性
情報の蓄積・検索能力の向上

」

（文部省：マルチメディア懇談会報告書 平成8年7月 より）

この授業では、「デジタル技術を使って文字・音声・映像等を扱うこと・状態」だと定める

デジタル → 「コンピュータの十八番」

マルチメディア → コンピュータ という図式が成り立っている

デジタルの特徴

情報の圧縮が可能

衛星放送 アナログ1チャンネル = デジタル数チャンネル

テキスト、音声、静止画、動画、あらゆるメディア情報を圧縮できる

- 結果的にたくさんの情報を送ることができる

情報の信頼性が増す

エラーの訂正。ノイズの除去が可能

PCMの音声。デジタルビデオ

- 結果的に、高画質・高音質を実現することができる

情報の分離、合成が自由にできる

情報の非同期化が可能となる

自在に変換、変形を施すことができる

情報の階層化ができる

検索ができる

メタ情報化

→ 結果的に、情報の利便性が高まる

非同期化について・・・

通常は 等時性メディア(isochronous media)

・・・ タイミングと同期が必要なメディア

人の音声・テレビの放送 は アナログ であり、連続している ものである。

・・・ 時間的に連続して再生されたときだけ、意味を伝えることができる

(タイミングの維持が重要)

身の回りには多くのデジタル機器があるが、

CD や MD プレーヤがこれらの特徴をよく説明してくれる

高音質・・・

音飛び防止・・・

選曲・・・

デジタルは良いことばかりではない

デジタル情報は「弱さ」「脆さ」

「一部」が破壊されたアナログメディアとデジタルメディアの違い

デジタルメディアは「完全な」セットでなければならない

実習 情報(ファイル)の一部を壊してみ、アプリケーションソフトウェアの反応を見てみましょう